

	質問	回答
1	山本健介さんのおススメの書籍を教えてください。②国際問題の多くは、中東にあると思っています。10年後の中東はどうなっていると予測していますか？楽観的ですか？悲観的ですか？③エルサレム問題、中東問題の解決のために、私たち日本人が行うべきことは何ですか？	①オススメの本は色々ありますが、文化や政治経済などを総合的に取り上げた『中東を学ぶ人のために』が最近の良書だと思います。中東政治に限れば、『＜中東＞の考え方』『9.11後の現代史』『イスラーム主義』なども読みやすいです。 ②10年後の中東は全く予想がつかないですね。想像もしないことが起こるのが中東政治の一つの「面白さ」です。パレスチナ問題について言えば、残念ながら事態が好転していることはないでしょう。ヨルダン川西岸にあるユダヤ人の入植地などイスラエル領に併合されてしまう可能性は十分あると思いますし、イスラエル政府のガザへの締め付けは今よりずっと強くなっているでしょう。結局はアメリカやイスラエルがどのように動くのかが諸々の決定要因になりそうです（アラブ諸国やパレスチナ人の意向にも影響はされるとはいますが）。 ③月並みですが、やはりまずは日本人も中東の出来事をもっと知る必要があります。いかに地理的に遠くても国際社会の一員として日本も無関係ではないはずで。また別な角度から言うと、パレスチナ問題は国際法をはじめとする「道理」とパワーポリティクスのせめぎ合いでもありますので、パレスチナや中東に直接にかアプローチする以外にも、「道理」を大事にする国際社会を希求して行動する、あるいはそのように日本政府に促すことが迂遠に見えて実は中東和平に貢献できる手段かもしれません。
2	山本健介さんの今後の動向が気になります。今後、エルサレム問題、中東問題に対し、どのように関わっていこうと考えていますか？	私は大学の教員・研究者という立場ですので、まずは、大学生を中心に、日本社会の中東理解を深めていく助けができればと思っています。それ以外には、市民講座の登壇やNGO/NPOの協力などのアウトリーチも可能な範囲で進めていきたいです。ゆくゆくはパレスチナの学術機関や市民組織などと連携して、日本の学生との交換留学や短期派遣プログラムなどを通じて、継続的に交流ができれば良いと考えています。全体として言えば、中東やパレスチナに関心を持つ色んな人がそれぞれの場所で出来ることをやっていくのが重要だろうと思っています。
3	パレスチナ人は非常に頭が良く、難民としてパレスチナ外に出ても、成功されている方も多いと思いますが、彼等が団結して国際的に影響力を行使するような活動は存在しないのでしょうか？	パレスチナ人は中東やアラブ世界のなかでも昔から教育水準が比較的高く、アラブ湾岸産油国が今のように発展を遂げる前には多くのパレスチナ人が教員やビジネスマンとして社会を支えていたと言われています。国際的な舞台でのアドボカシーなどは、特にアメリカやイギリスに住むパレスチナ人などが熱心に取り組んでいますが、やはり資金力の問題などもあり、政治的なパワーとして現実を変えるほどの影響力は持てないでいます。このような現状を変えるために、在外パレスチナ人のあいだでは、西岸地区・ガザ地区を拠点とするパレスチナ自治政府ではなく、パレスチナ人民の代表機関であるパレスチナ解放機構（PLO）の権能を再生させようとする動きも見られます。
4	「専門は現代中東政治」とあります。山本健介さんが、現代中東政治に関心を寄せたキッカケを伺いたいです。他にない、現代中東政治ならではの魅力は何ですか？	私が中東政治に関心を持ったきっかけはそれほど劇的なものではありません。中東研究者のなかには「9.11事件に衝撃を受けた」といったような研究対象との明確な「出会い」があった人もいますが、私の場合は平凡なもので、学部生時代に中東研究の授業を受けたのが直接の契機です。当時は単純になんだか面白いと思っていただけでしたが、今振り返ると、世界的な常識（のようなもの）と異なる価値観や世界観に関心があったのかもしれないし、知的好奇心として、多くの人が知らない何かを知りたいといった感情はあったのかもしれません。中東政治の全てが独特なわけではありませんが、想像を超える出来事やあまり馴染みのないロジックなどに会って素直に驚く経験は今でも多いので、そこは中東政治研究の魅力だと思います。